

ポイント

◆◆特集◆◆

★常磐自動車道全線開通について★

(東日本高速道路株式会社 東北支社 建設事業部)

常磐自動車道は、平成26年12月6日に 浪江 IC～南相馬 IC 間および相馬 IC～山元 IC 間、3月1日に常磐富岡 IC～浪江 IC 間が開通し常磐道352kmが全線開通となった。本稿では東日本大震災及び福島第一原子力発電所事故の影響等による工事用資機材等の調達が困難ななか、確実な事業進捗に向けた取組について紹介する。

◆◆道路占用Q&A◆◆

★占用入札制度について★

(国土交通省 道路局 路政課 道路利用調整室)

占用入札制度について解説する。

◆◆TOPICS◆◆

★★有料道路「伊豆中央道」と「修善寺道路」への合併採算制導入★

(静岡県交通基盤部道路局道路企画課・静岡県道路公社)

静岡県及び静岡県道路公社では、2014年(平成26年)4月1日から、一般有料道路である「伊豆中央道」と「修善寺道路」に合併採算制を導入した。本稿では、導入までの経緯等この取組について紹介する。

## ◇◆地域における道路行政に関する取組み事例◆◇

### ★栃木県内における「道の駅」の取組みについて★

(国土交通省 関東地方整備局 宇都宮国道事務所 調査課)

栃木県では、平成 8 年に道の駅「もてぎ」が栃木県第一号として登録されて以来、現在までに 23 箇所が登録され、各「道の駅」の様々な取組みにより、地域の雇用創出や経済の活性化に貢献しています。本稿では、地域活性化の拠点・防災・大学との連携など、栃木県における「道の駅」取組みについて紹介します。

.....

### ★道路ネットワーク確保のための対策について★

(福井県 土木部 道路保全課)

福井県内の交通ネットワークの概要と、最も重要な区間となる南越前町～敦賀市間の主要路線のバックアップとして使われている「越前・河野しおかぜライン」、および、冬期間における本県のソフト面での対応について紹介する。

.....

### ★舞鶴若狭自動車道と道の駅を活用した社会実験について★

(福井県 小浜市 産業部 都市整備課)

小浜市では、道の駅「若狭おばま」が小浜インターチェンジに近接していることに着目し、高速道路上で道の駅やガソリンスタンド等の情報を提供し、小浜市内全体を SSA（スローサービスエリア：地域全体をサービスエリアととらえ、ゆとりと多様性のあるサービスを地域全体で提供しようとする構想）と位置づけ、高速道路利用者を誘導する社会実験を実施しました。本稿では、これらの取組みについて紹介します。

## ◆◆編集後記◆◆

どこへ行っても混雑するとわかっていますが、大型連休ともなると、心はずんで外出したくなります。今年のゴールデンウィークは晴天に恵まれたこともあって、バーベキューやショッピングなどを満喫することができ、ついお金を使いすぎてしまいました。

そもそも、お金（貨幣）というものが存在していなかった時代には、自分の物と他人の物を交換する、物々交換によって手に入れていました。布や米、塩などの誰もが必要とする価値の高い物が、交換品とされていたそうです。交換品の種類が増えてくると、人によって欲しい物が異なり、物々交換が難しくなったため、共通の品として“硬貨”が作られました。ところが、材料である金属が“硬貨”ならぬ“高価”で、不足がちとなったことから、原価の安い紙に目をつけられ“紙幣”が誕生しました。

先日の新聞に、戦後の新円切り替え時に候補となった紙幣の原画、53点のうち12点が公開されたとの記事がありました。この原画の多くは、戦後の混乱によって行方がわからなくなり、今回、現物が確認されたのは初めてで、“幻の紙幣”が発見されたと話題になっていました。戦前の紙幣は、神話や武士などの戦いをイメージするモチーフが主流でしたが、戦後、新時代を迎える日本を表現するため、仏像や白いハトなどの平和的なモチーフが数多く考えられました。しかし、選考基準がとても厳しかったことから、採用されたのは53点のうち1点だけでした。収集家の間では喉から手が出るほど欲しい逸品のようなのですが、販売されることはなく、叶わぬ夢のようです……。

一方で、叶うかもしれない夢もあります。普段使っている硬貨の中にも、額面以上の価値で取引されている“プレミア貨幣”と呼ばれるものがあります。滅多にお目にかかることはなさそうですが、5円や50円硬貨にあるはずの穴があいていない・位置がずれているなどの場合には、数千円～数十万円になることがあると聞いて驚きを隠せませんでした。また、縁にギザギザが刻まれていることから、“ギザ10”とよばれている10円硬貨は、比較的手に入りやすい“プレミア貨幣”のひとつではないでしょうか。“ギザ10”は、昭和26年～33年に造られ、製造年の発行枚数によって価値が変わります。なかでも、昭和33年のものは、1年間に4～5億枚以上発行されていた他の年と比べて、2,500万枚と極端に少ないため、200円ほどの値がつくことがあるそうです。

小学生のころ“ギザ10”は希少なものだとして知り、お釣りでもらった10円玉の縁にギザギザがあると、価値があるかも知れないと使わずに取っておくようになりました。ゴールデンウィークに散財してしまったこともあって、過去のコレクションを確認してみましたが、残念ながら昭和33年発行のものは1枚もありませんでした。貯金箱など、もっとよく探してみれば、価値のある“プレミア貨幣”が眠っているかもしれない！ と小さな夢をみているところです。(K)